

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念があるが、「地域の中で」という視点に立った事業所独自のものではない。	○	グループホームの方針として、「家庭的な雰囲気提供」をあげているが、地域との連携の意味も含めた内容としていく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の法人の理念を毎朝唱和し、理念の実践に向けて意識を高めている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	法人理念、事業所理念についてはまだ家族や地域の人々に向けた取り組みを行っていない。	○	家族に対しては入居時や行事等を活用し、また、地域に対しては説明する機会を設定し、周知を図る。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者は地域の集会等に参加しているが、日常的な付き合いはなく、職員はあいさつ程度である。	○	行事等への参加のお誘いや、近所への散歩等を通じ、顔見知りになっていくことから始める。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は一部の集会等には参加しているが、それ以上の取り組みはできていない。	○	地域の行事等への参加から始めてみる。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生や見学は受け入れている	○	地域の研修や会合参加し、情報の提供や発信ができるようにしていく

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価委員会の設置があり、毎年職員各自で自己評価を実施し、その結果を踏まえての取り組みを行なっている。	○	職員による自己評価の結果に優先順位をつけ、改善のための取り組みを実施している
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見等は部署会議等を活用し、職員に報告、連絡している		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との関係作りがまだできていない		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員への学習の場の提供がまだできていない	○	年間計画に研修を組み入れたり、地域にて実施されている研修への参加を行なう
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて取り上げ、全職員に学習した。また、虐待につながることを意識するための取り組みを行なっている。	○	職員の言葉や態度について、虐待に対して意識を高めるための取り組みを行なっている
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約改定時には十分な説明を行っているが、不安や疑問を出せていないのではないかと懸念がある	○	家族が持っている不安、疑問点を率直に出せるような雰囲気作りを行なう

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは苦情等の受付の説明、第三者機関 の設置について、契約時に行なっている が、利用者に対しては特別な機会を提供し ていない		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	暮らしぶりや健康状態については2ヶ月ご とに文書にて報告を行なっている。金銭管 理については個別の要望に応じて報告して いる。	○	グループホーム新聞を発行し、情報を提供 する
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には苦情についての第三者機関があ ることの説明を行なっている。	○	行事や家族への便りの送付時を利用し、施 設内の苦情箱の設置や第三者機関の設置の 旨の情報を発信していく
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	毎月の会議に職員からの意見を取り上げて いる。また、人事考課の面接時に意見を聴 取する機会を設けているが、意見の反映に ついてはまだ不十分。	○	会議の場や人事考課の面接で出された意見 を運営に反映させるよう、管理者、責任者 にて話し合う機会を設ける
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	利用者の状況に合わせた対応を行なえるよ う、業務調整を行なっている		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は各ユニットにてケアを行っているた め、異動等によるダメージは比較的少ない。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時には十分に配慮している		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人理念に人権尊重について述べられており、毎日の唱和を通じて職員の意識向上を行なっている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修やフォローアップ研修等、職員の段階に合わせて研修を実施している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者より、他施設の動向等についての情報提供はあるが、職員が地域の同業者とのふれあいを行なう機会は設定されていない	○	研修回数の増加や、他事業所との交流を深める。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室の確保、サークルの設置等を行なっている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を活用しながら、職員の努力や勤務状況を把握し、各職員の意識向上を図っている	○	人事考課制度は現在試行段階にあるため、その中で向上心が持てる仕組みを作る。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接にて、利用者本人の様子を伺うようにしている。	○	十分な時間を取り、アセスメントを行なっていく。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申し込み時より、困っていること等を伺う機会を作っている	○	家族面接の機会の設定
27	—	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	幅広い支援は不十分である		
28	15	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所当初は、他の方とうまく交流が図れるよう観察しながら十分なかかわりを持っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は寄り添いながら、思いを受け止めつつ経験から学んだり、人生の先輩後輩として支えあいながら生活している。	○	生活歴、人生観、死生観等をまなぶことによって、精神的側面からの援助を更に行なっていく。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に日常の状況を報告している		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時にはゆったりと過ごして頂けるように配慮している。また、認知症の進行により家族との関係が悪化しないよう状態の説明を行なっている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や入居者から生活歴や以前の生活環境等を聞き取っている	○	家族や入居者からの聞き取りを更に重視し、これまでの関係を断ち切らないような援助を行なう。
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者同士がよい関係を築けるように、また、孤立しがちな利用者には職員が積極的に関わりながら間に入っている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的なかわりを必要とする方については関係を継続させている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志決定のある程度可能な方については、希望や意向の把握に努めている。	○	聞き取った希望や意向を実践するため、会議等を利用しながらチームケアにてサポートする体制をとっていく。
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等に関する一覧表を作成し、ケアに生かしている。	○	会議の場等を活用し、職員との会話から分かった過去のエピソードや生活歴等を加えていく。情報の管理の仕方を検討し、寄り多くの情報の蓄積を目指す。



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	状態チェック表の記入を行ない、心身の状況把握に努めている。また、個別のケース記録に毎日の状況についての記録を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者と家族にそれぞれ意向を伺い、介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した際には必要なケアは行なっているものの、介護計画の見直しは遅い。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録として個別に記録し、共有しているが、実践や介護計画の見直しには十分に生かせていない。	○	個別の記録から課題としての取り上げ、実践へとつながる仕組みづくりが必要。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟な支援はできていない。	○	グループホームの特性を生かしながら支援を行なう仕組みづくりが必要。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	協力関係が構築されていない。	○	グループホームの地域への周知のため、新聞やチラシ等を作成し、各団体や機関に持参し、配布を行なう。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用についての支援は行なっていない。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設施設のケアマネージャーに相談を行なっている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームのかかりつけ医があり、入居者・家族に入居時に説明・承諾を得て医療を受けている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症外来を受診し、継続した支援を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホームの看護師と併設施設の看護師に入居者の健康管理について相談を行ない、支援を受けている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院期間を確認しながら、退院に向けての情報交換や相談を行なっている。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対してはご家族に相談しているが、継続していない。終末期への対応についてはまだ取り組んだ例がない。	○	重度化についての対応についてはまず職員との話し合いを実施し、対応の指針作りをしていきたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後に備えた検討や準備が必要である。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケア関係者にて十分な話し合いを持つようにしている。特に併設施設へ入所となるケース時には十分に対応できている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	サービス評価委員を活用しながら職員の言葉づかいや態度について改善のための取り組みを行なっている。	○	「言葉づかい・態度の『エッ』」を活用し、職員の気づきを増やしていく。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意見を言ったり、選択ができるように職員が声かけを行なっている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意向を聞き、対応しているが十分ではない。	○	全体を把握しながら、個人のペースを尊重した対応を職員間で話し合い、対応していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	意向の言える方、言えない方に関わらず、移動美容室を利用している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食の副菜のみ作っている現状であるが、それ以上の取り組みについては困難な現状。食事についても職員と一緒に席についてとるようにしているが楽しみの提供までには至っていない。	○	食事時間が楽しいものとなるための工夫が更に必要。
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を考慮しながら食事を提供している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、個別に対応するようにしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の体調や希望などを伺いながら、毎日でも入浴して頂けるような体制を取っている。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別に生活パターンを把握しながら体調や状態に応じて休息や睡眠がとれるよう援助している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる方には負担とならないように配慮しつつ、役割を担って頂いているが、全員に行なっていない現状である。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部能力のある方については自己管理されているが、自己管理ができていない方が少なくなり、ほとんどが職員管理の現状である。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時には外出できるよう対応を工夫しているものの、毎回希望時の外出ができていない現状である。	○	業務の中で短時間でも希望に添えるような対応に努める。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として季節の花見やスポットへの外出を行なっているが、回数が少ない。		
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により行なっている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	気軽に来園して頂き、ゆったりと過ごして頂けるよう配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、研修の機会も設けている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
69	—	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間を通じて職員が常駐し、安全に過ごして頂けるようにしている		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤は場所を決めて危険がないように収納しているが、能力のある方は作業場の必要時に自由に取り出すことができている。		
71	—	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を設置し、事故報告・ヒヤリハット報告を作成・活用している。	○	個別の状態に応じた事故防止への取り組みが更に必要。
72	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	2ヶ月に1度の緊急時の対応の研修を計画しているが実施できていないことが多い。	○	研修の実施を確実に行ない、職員の不安の解消につなげる。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練については隔月実施を事業計画に組み込んでいるが、他の災害時の対応策、また、地域の人々への協力依頼には取り組んでいない。	○	地域消防団との防災訓練を計画し、依頼する。また、一緒に防災訓練を行なうことで入居者の方々の状況を知って頂く。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	退院時など症状の変化に伴うリスクについては説明を行なっている。	○	生活で起こりえるリスクについてご家族に説明できるよう準備を行なう。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックに目を通し、食事量や顔色をみて入居者の変化に気をつけながら介護している。また、状態変化のある際は、連携して観察し、併設施設の看護師、医療機関への相談対応を行なっている。	○	入居者のアレルギーや持病等を詳しく理解し、リスクをなくしていく。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬チェック表に薬の作用が記載されており、入居者の服用している薬の確認を行っている。また、状態を観察し、薬剤調整を医療機関に依頼している。しかし、与薬忘れなど、十分な支援ができていないと言える。	○	薬の責任者を置くことと、職員個々が入居者の副薬目的・用法の確実な把握をし、事故報告をなくすよう努める。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の様子、利用者の水分摂取量などの状況を見て便秘薬の調整を行なっている。	○	強制ではなく、日課として毎日体操や散歩を行なってみる。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	現在は主に夕食後に口腔ケアを行なっている。	○	毎食後の口腔ケアの実施に向け、うがい、茶を飲む等で口腔内の残渣物を取り除くことから始める。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量チェックを行なっている。食事摂取が偏っている方については家族からの情報(嗜好等)を得たり、管理栄養士への相談を行ない対応している。水分についてもゼリーを作成し、対応を行なっている。	○	水分については水分量を増やすため、茶だけではなく好みに合わせて提供している。
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルが配布されており、研修を受けている。また、入居者はトイレ後、調理前後の手洗い、外出後のうがい・手洗いが励行されている。	○	職員の出勤退勤時の手洗いうがいの励行。
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日冷蔵庫の清掃を行ない、賞味期限のチェックを行なっている。また、調理器具や布巾等を消毒している。	○	食在庫の見直し、検討を行なう。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には飾りを作ったり、花を生けたりと入りやすい配慮はしている。	○	照明を変える等して気軽に入れる雰囲気を作りたい。また、玄関に表札を掲げるよう製作中。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて壁面を飾ったり、花を生けたりしている。	○	本棚を設置して雑誌や本を置けるスペースを作り、自由に読んだり過ごしたりできるようにしたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は居室に戻られ、気のあった入居者同士が会話ができる居間や談話室を設けている。	○	好きな時に自分でお茶を入れたりできる空間を設けていきたい。また、中庭が居心地のよい場所にする工夫をしたい。



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望、家族との相談において、居室は居心地よく過ごして頂けるよう、家具や鉢を持ち込んで頂いている。	○	リスクを考えつつ、殺風景な居室の方も居心地よく過ごせるよう工夫していく。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時や生活の節々で換気には留意している。空調調節も入居者に確認して調整し、支援を行なっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険となるものは取り除き、場所が理解できるように工夫している。	○	居間の段差の改善や、重い扉(居室・トイレ)の取り扱いを工夫していきたい。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所にはトイレを表示した紙を貼ったり、居室にも名前を分かりやすく貼るなどの支援を行なっている。	○	板の間とじゅうたんとコントラストの違いで恐怖心を感じている方もいるので、じゅうたんの色の工夫をするなどの支援をしていきたい。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	作物の収穫を楽しんで頂いたり、草取り、水撒きと言った活動ができています。	○	菜園へ出るためには段差があるため、誰でも気軽に出られるよう段差をなくすなどの工夫をしていきたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目</b>						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設施設の機能を活用したカラオケ・喫茶等の参加、利用等、通所介護の方々と一緒の時間を持っている(なじみの関係がつくれている)  
また、緊急時、急変時には、助言や支援・連携しての対応が行えている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念があるが、「地域の中で」という視点に立った事業所独自のものではない。	○	グループホームの方針として、「家庭的な雰囲気提供」をあげているが、地域との連携の意味も含めた内容としていく
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の法人の理念を毎朝唱和し、理念の実践に向けて意識を高めている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	法人理念、事業所理念についてはまだ家族や地域の人々に向けた取り組みを行っていない。	○	家族に対しては入居時や行事等を活用し、また、地域に対しては説明する機会を設定し、周知を図る。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者は地域の集会等に参加しているが、日常的な付き合いはなく、職員はあいさつ程度である。	○	行事等への参加のお誘いや、近所への散歩等を通じ、顔見知りになっていくことから始める。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は一部の集会等には参加しているが、それ以上の取り組みはできていない。	○	地域の行事等への参加から始めてみる。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生や見学は受け入れている。	○	地域の研修や会合参加し、情報の提供や発信ができるようにしていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価委員会の設置があり、毎年職員各自で自己評価を実施し、その結果を踏まえての取り組みを行なっている。	○	職員による自己評価の結果に優先順位をつけ、改善のための取り組みを実施している。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見等は部署会議等を活用し、職員に報告、連絡している。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との関係作りがまだできていない。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員への学習の場の提供がまだできていない。	○	年間計画に研修を組み入れたり、地域にて実施されている研修への参加を行なう。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて取り上げ、全職員に学習した。また、虐待につながることを意識するための取り組みを行なっている。	○	職員の言葉や態度について、虐待に対して意識を高めるための取り組みを行なっている。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約改定時には十分な説明を行っているが、不安や疑問を出せていないのではないかと懸念がある。	○	家族が持っている不安、疑問点を率直に出せるような雰囲気作りを行なう。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは苦情等の受付の説明、第三者機関 の設置について、契約時に行なっている が、利用者に対しては特別な機会を提供し ていない。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	暮らしぶりや健康状態については2ヶ月ご とに文書にて報告を行なっている。金銭管 理については個別の要望に応じて報告して いる。	○	グループホーム新聞を発行し、情報を提供 する。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には苦情についての第三者機関があ ることの説明を行なっている。	○	行事や家族への便りの送付時を利用し、施 設内の苦情箱の設置や第三者機関の設置の 旨の情報を発信していく。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	毎月の会議に職員からの意見を取り上げて いる。また、人事考課の面接時に意見を聴 取する機会を設けているが、意見の反映に ついてはまだ不十分。	○	会議の場や人事考課の面接で出された意見 を運営に反映させるよう、管理者、責任者 にて話し合う機会を設ける。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	利用者の状況に合わせた対応を行なえるよ う、業務調整を行なっている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は各ユニットにてケアを行っているた め、異動等によるダメージは比較的少ない。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時には十分に配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人理念に人権尊重について述べられており、毎日の唱和を通じて職員の意識向上を行なっている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修やフォローアップ研修等、職員の段階に合わせて研修を実施している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者より、他施設の動向等についての情報提供はあるが、職員が地域の同業者とのふれあいを行なう機会は設定されていない。	○	研修回数の増加や、他事業所との交流を深める。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室の確保、サークルの設置等を行なっている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を活用しながら、職員の努力や勤務状況を把握し、各職員の意識向上を図っている。	○	人事考課制度は現在試行段階にあるため、その中で向上心が持てる仕組みを作る。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接にて、利用者本人の様子を伺うようにしている。	○	十分な時間を取り、アセスメントを行なっていく。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申し込み時より、困っていること等を伺う機会を作っている。	○	家族面接の機会の設定。
27	—	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	幅広い支援は不十分である。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所当初は、他の方とうまく交流が図れるよう観察しながら十分なかかわりを持っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は寄り添いながら、思いを受け止めつつ経験から学んだり、人生の先輩後輩として支えあいながら生活している。	○	生活歴、人生観、死生観等を学ぶことによって、精神的側面からの援助を更に行なっていく。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に日常の状況を報告している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時にはゆったりと過ごして頂けるように配慮している。また、認知症の進行により家族との関係が悪化しないよう状態の説明を行なっている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や入居者から生活歴や以前の生活環境等を聞き取っている。	○	家族や入居者からの聞き取りを更に重視し、これまでの関係を断ち切らないような援助を行なう。
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者同士がよい関係を築けるように、また、孤立しがちな利用者には職員が積極的に関わりながら間に入っている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的なかわりを必要とする方については関係を継続させている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志決定のある程度可能な方については、希望や意向の把握に努めている。	○	聞き取った希望や意向を実践するため、会議等を利用しながらチームケアにてサポートする体制をとっていく。
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等に関する一覧表を作成し、ケアに生かしている。	○	会議の場等を活用し、職員との会話から分かった過去のエピソードや生活歴等を加えていく。情報の管理の仕方を検討し、寄り多くの情報の蓄積を目指す。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	状態チェック表の記入を行ない、心身の状況把握に努めている。また、個別のケース記録に毎日の状況についての記録を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者と家族にそれぞれ意向を伺い、介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した際には必要なケアは行なっているものの、介護計画の見直しは遅い。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録として個別に記録し、共有しているが、実践や介護計画の見直しには十分に生かせていない。	○	個別の記録から課題としての取り上げ、実践へとつながる仕組みづくりが必要。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟な支援はできていない。	○	グループホームの特性を生かしながら支援を行なう仕組みづくりが必要。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	協力関係が構築されていない。	○	グループホームの地域への周知のため、新聞やチラシ等を作成し、各団体や機関に持参し、配布を行なう。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用についての支援は行なっていない。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設施設のケアマネージャーに相談を行なっている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームのかかりつけ医があり、入居者・家族に入居時に説明・承諾を得て医療を受けている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症外来を受診し、継続した支援を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホームの看護師と併設施設の看護師に入居者の健康管理について相談を行ない、支援を受けている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院期間を確認しながら、退院に向けての情報交換や相談を行なっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対してはご家族に相談しているが、継続していない。終末期への対応についてはまだ取り組んだ例がない。	○	重度化についての対応についてはまず職員との話し合いを実施し、対応の指針作りをしていきたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後に備えた検討や準備が必要である。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケア関係者にて十分な話し合いを持つようにしている。特に併設施設へ入所となるケース時には十分に対応できている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	サービス評価委員を活用しながら職員の言葉づかいや態度について改善のための取り組みを行なっている。	○	「言葉づかい・態度の『エッ』」を活用し、職員の気づきを増やしていく。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意見を言ったり、選択ができるように職員が声かけを行なっている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意向を聞き、対応しているが十分ではない。	○	全体を把握しながら、個人のペースを尊重した対応を職員間で話し合い、対応していく。



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	意向の言える方、言えない方に関わらず、移動美容室を利用している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食の副菜のみ作っている現状であるが、それ以上の取り組みについては困難な現状。食事についても職員と一緒に席についてとるようにしているが楽しみの提供までには至っていない。	○	食事時間が楽しいものとなるための工夫が更に必要。
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を考慮しながら食事を提供している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、個別に対応するようにしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の体調や希望などを伺いながら、毎日でも入浴して頂けるような体制を取っている。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別に生活パターンを把握しながら体調や状態に応じて休息や睡眠がとれるよう援助している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる方には負担とならないように配慮しつつ、役割を担って頂いているが、全員に行なっていない現状である。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部能力のある方については自己管理されているが、自己管理ができていない方が少なくなり、ほとんどが職員管理の現状である。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時には外出できるよう対応を工夫しているものの、毎回希望時の外出ができていない現状である。	○	業務の中で短時間でも希望に添えるような対応に努める。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として季節の花見やスポットへの外出を行なっているが、回数が少ない。		
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により行なっている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	気軽に来園して頂き、ゆったりと過ごして頂けるよう配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、研修の機会も設けている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
69	—	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間を通じて職員が常駐し、安全に過ごして頂けるようにしている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤は場所を決めて危険がないように収納しているが、能力のある方は作業場の必要時に自由に取り出すことができている。		
71	—	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を設置し、事故報告・ヒヤリハット報告を作成・活用している。	○	個別の状態に応じた事故防止への取り組みが更に必要。
72	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	2ヶ月に1度の緊急時の対応の研修を計画しているが実施できていないことが多い。	○	研修の実施を確実に行ない、職員の不安の解消につなげる。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練については隔月実施を事業計画に組み込んでいるが、他の災害時の対応策、また、地域の人々への協力依頼には取り組んでいない。	○	地域消防団との防災訓練を計画し、依頼する。また、一緒に防災訓練を行なうことで入居者の方々の状況を知って頂く。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	退院時など症状の変化に伴うリスクについては説明を行なっている。	○	生活で起こりえるリスクについてご家族に説明できるよう準備を行なう。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックに目を通し、食事量や顔色をみて入居者の変化に気をつけながら介護している。また、状態変化のある際は、連携して観察し、併設施設の看護師、医療機関への相談対応を行なっている。	○	入居者のアレルギーや持病等を詳しく理解し、リスクをなくしていく。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬チェック表に薬の作用が記載されており、入居者の服用している薬の確認を行なっている。また、状態を観察し、薬剤調整を医療機関に依頼している。しかし、与薬忘れなど、十分な支援ができていないと言える。	○	薬の責任者を置くことと、職員個々が入居者の副薬目的や用法の確実な把握をし、事故報告をなくすよう努める。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の様子、利用者の水分摂取量などの状況を見て便秘薬の調整を行なっている。	○	強制ではなく、日課として毎日体操や散歩を行なってみる。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	現在は主に夕食後に口腔ケアを行なっている。	○	毎食後の口腔ケアの実施に向け、うがい、茶を飲む等で口腔内の残渣物を取り除くことから始める。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量チェックを行っている。食事摂取が偏っている方については家族からの情報(嗜好等)を得たり、管理栄養士への相談を行ない対応している。水分についてもゼリーを作成し、対応を行っている。	○	水分については水分量を増やすため、茶だけではなく好みに合わせて提供している。
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルが配布されており、研修を受けている。また、入居者はトイレ後、調理前後の手洗い、外出後のうがい・手洗いが励行されている。	○	職員の出勤退勤時の手洗いうがいの励行。
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日冷蔵庫の清掃を行ない、賞味期限のチェックを行なっている。また、調理器具や布巾等を消毒している。	○	食在庫の見直し、検討を行なう。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には飾りを作ったり、花を生けたりと入りやすい配慮はしている。	○	玄関に表札を掲げるよう製作中。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて壁面を飾ったり、花を生けたりしている。	○	本棚を設置して雑誌や本を置けるスペースを作り、自由に読んだり過ごしたりできるようにしたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は居室に戻られ、気のあった入居者同士が会話ができる居間や談話室を設けている。	○	好きな時に自分でお茶を入れたりできる空間を設けていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望、家族との相談において、居室は居心地よく過ごして頂けるよう、家具や鉢を持ち込んで頂いている。	○	リスクを考え、殺風景な居室の方も居心地よく過ごせるよう工夫していく。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時や生活の節々で換気には留意している。空調調節も入居者に確認して調整し、支援を行なっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険となるものは取り除き、場所が理解できるように工夫している。	○	居間の段差の改善や、重い扉(居室・トイレ)の取り扱いを工夫していきたい。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所にはトイレを表示した紙を貼ったり、居室にも名前を分かりやすく貼るなどの支援を行なっている。	○	板の間とじゅうたんとコントラストの違いで恐怖心を感じている方もいるので、じゅうたんの色の工夫をするなどの支援をしていきたい。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	作物の収穫を楽しんで頂いたり、草取り、水撒きと言った活動ができています。	○	菜園へ出るためには段差があるため、誰でも気軽に出入りできるように段差をなくすなどの工夫をしていきたい。



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

豊かな自然の中で生活している事でゆとりのある時間を持っていただいている。  
また、中庭・畑がホーム内から見え、季節感を感じていただいている。